

平成17年度
「学生による授業評価」
報告書

平成18年12月

宮崎大学農学部

はじめに

宮崎大学農学部としての本報告書は、5年前の平成13年度にファカルティー・ディベロップメント委員会を設置して授業の内容および方法の改善について活動を開始してから4回目になります。

当初は、授業評価結果を学科ごとにとりまとめた平均像を表示するにとどまっていたが、最近では、全教科目での実施、教員・科目ごと分析による教員自身の検証と改善が加えられ、また、大学院教育も視野に入れた検証作業に取りかかっています。

なお、最新の本年度報告書をとりとめるにあたっての学部評価室長（原田評価担当副学部長）による専門的な見解は目的、経緯、結果等を併せ、巻末に述べられています。

平成18年10月に開かれた第115回全国農学系学部長会議第1常置委員会の協議事項は「学生の質の確保と保証に向けた教育改革・改善の取り組みと課題について」でした。学生数の確保はもとより、大学評価に直結する「学生ならびに教育の質」をいかに確保するかは全国的な関心を集めており、各大学・学部において真剣な議論が続けられています。

「学生による授業評価」は、法人化後の「中期目標・中期計画」において、その活用により教育の質改善に資することが明示されて久しいのですが、実践面における活用・効用についても関係者間に次第に定着しつつあるのも事実です。学生側からの一方的評価にとどまらず、学生・教員・職員の関係者が三位一体となった授業評価の方法ならびに評価、そして改善の道が開かれることを願っています。

今後とも、とりわけ教員におかれては、この度の評価結果を自らのものとして前向きに捉え、授業・教育内容の改善について、より一層、努められんことを改めてお願いして、「はじめに」の言葉といたします。

平成18年11月8日

宮崎大学農学部長

小八重 祥一郎

平成17年度「学生による授業評価」をまとめるに当たって

今日、種々の評価によって大学における教育・研究に係わる検証・改善が進められる中、本学農学部においてもいくつかの教育サービスが実施されてきた。その評価の一つとして、農学部では、5年前から「学生による授業評価」のアンケート調査が実施され、これまで、“単独教員による講義”を対象に、また、“複数教員による講義”と“実験実習”を対象に、それぞれ、学科、フィールドセンターごとにまとめて分析・報告し、組織的な教育方法の改善に努めてきた。最近では、全教科目について、実施し、かつ、各教員・各科目ごとに分析し、教員個人レベルの教科目による検証・改善に活かしてきた。また、昨年からは、大学院（修士課程）の教科目に対しても実施範囲を広げて学部のみならず研究科の教育方法改善への検証作業に取り掛かりつつある。

これら、学生による授業ないし教育の評価を、単なる外部向けの実績づくりに埋没させたり、教員の教育業績評定のみに用いたりするのではなく、教員、事務員と学生との連携による教育改善に活かすためにはどうすればよいか、これまでの学部および大学院の優れた実践事例も手がかりにさせていただきながら進めていかねばならないと考えているが、具体的には、(1)研究能力開発、(2)教育能力開発（個人レベルから集団レベルまで）、(3)カリキュラム開発、(4)組織開発（大学評価、外部評価など）などが挙げられ、検討項目は多岐にわたっている。

一方、高等教育を担うとされている大学への進学率は2004年度（現在3年生）で49.9%になった。実に、18歳人口の2人に1人が大学や短期大学に進学しており（文部科学省「平成16年度学校基本調査速報」）、専修学校（専門課程）進学率も19.2%と高まり、これらを合わせると70.1%の人が18歳時点で進学を選んでいる。

少子化の影響は明らかであり、大学入学者の総定員は18歳人口の減少に見合うようには削減されていない。すなわち、競争は緩和し高望みしなければ、どこかの大学に進学できる。これらのことが、学生の学習を初めとする種々の意欲低減にもつながり、教育方法改善策にも様々な工夫が必要となってきた。まさしく、個々の大学・学部において、それぞれが期待する人材像育成に向けて根本的なFD活動が望まれている時である。

今回の報告書を自己の事例と照らし合わせ、今後の教育活動に活かしていただければ幸いである。

宮崎大学農学部評価室長
原 田 宏

目 次

	ページ
1. 授業評価実施の方法	1
2. 評価結果の集計および表示方法	1
3. 学士課程における授業評価結果	2
A. 食料生産科学科	2
(1) 専門基礎科目	2
(2) 専門科目	6
B. 生物環境科学科	10
(1) 専門基礎科目	10
(2) 専門科目	12
C. 地域農業システム学科	14
(1) 専門基礎科目	14
(2) 専門科目	17
D. 応用生物科学科	20
(1) 専門基礎科目	20
(2) 専門科目	22
E. 獣医学科	24
4. 大学院修士課程における授業評価結果	27
A. 生物生産科学専攻	27
B. 地域資源管理科学専攻	29
C. 森林草地環境科学専攻	31
D. 水産科学専攻	33
E. 応用生物科学専攻	35
5. 授業評価の総括	37
委員名簿	38
資料（調査票）	39

1. 授業評価実施の方法

授業評価のアンケートは、授業担当教員が質問用紙とマークシート方式の回答用紙を任意の時期（通常は講義の終了時か試験時、実験・実習にあつては終了時）に配布し、実施した。質問用紙は講義用（資料1）と実験・実習用（資料2）の二種類を用意し、いずれの質問用紙も15項目の調査事項から成り、必要に応じて教員が独自に質問事項を追加できるような形式となっている。また、回答用紙には、改善を求めたいこと、その他意見や感想など自由に述べることのできる記述欄が設けられている。

アンケートの集計は、教員が授業評価の質問用紙（記述欄を含む）と回答用紙を回収した後、学科担当の非常勤職員の協力を得て、マークシートに●印で回答された用紙についてコンピュータ読取装置により効率的に行った。集計結果は、授業担当教員へフィードバックされるとともに、当該学科のFD委員にも報告される。

2. 評価結果の集計および表示方法

平成17年度授業評価の結果を取りまとめるに当たり、次の方針に基づき集計・表示した。

(1) 学士課程

- ① 各学科の開講科目を集計の対象とし、獣医学科を除く4学科については専門基礎科目と専門科目に区分して集計を行った。専門基礎科目は科目ごとに集計し、演習、実験、実習科目は集計から除いた。専門科目については、単独の教員による講義科目を対象として教員ごとに集計し、演習、実験、実習科目および複数教員による科目は集計から除いた。なお、学部共通科目は今回の集計対象から除いた。
- ② 学生による授業評価のアンケート調査を質問1から質問15について実施し、質問4を除く14項目ごとに集計した。質問4「教員は講義の進行を妨げるような行為（私語など）があった場合、注意していましたか。」は、その質問の性格上集計になじまないことが除外した理由である。
- ③ 質問14と15の予習・復習の質問については、「5:した」と「4:少しした」の差はあっても同質の回答と考へて一括して扱い、合計をそれぞれ「予習をした」、「復習をした」の百分率で示した。
- ④ 教員ごとに講義科目数が異なることから、集計結果は平均化した。
- ⑤ 集計の結果から科目または教員が特定できないように、科目または教員をアルファベットで表記し、その配列は順不同とした。

(2) 大学院修士課程

- ① 単独の教員による講義科目を対象とし複数教員による科目は集計から除いた。
- ② 学生による授業評価のアンケート調査を質問1から質問15について実施し、項目ごとに集計した。
- ③ 質問14と15の予習・討議への参加の質問については、「5:した」と「4:少しした」の差はあっても同質の回答と考へて一括して扱い、合計をそれぞれ「予習をした」、「討議に参加した」の百分率で示した。
- ④ 集計の結果から教員が特定できないように、教員をアルファベットで表記し、その配列は順不同とした。

3. 学士課程における授業評価結果

A. 食料生産科学科

(1) 専門基礎科目

1) 対象科目数および受講（アンケート回答）学生数

学科専門基礎科目13科目（選択13科目）を対象として、15質問項目について集計した。このうち、教員一人が単独で担当した科目が11科目、複数の教員が分担して担当した科目が1科目である。なお、アンケート結果未提出の教員は集計から除外した。選択科目の1科目当りのアンケート回答数は最少で20名、最大で75名であり、平均は58名であった。

2) 集計結果および分析

H17年度の集計結果を表1-1に示す。表中では各講義科目がアルファベットで表記されている。集計結果の概要は以下のとおりである。

【講義方法に関する項目】

○質問1：「講義は聞き取りやすかったかですか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で75%であった。教員別に見ると、最高90%、最低33%であった。80%以上を評価された教員が5人おり、概して学生には聞き取りやすい講義が行われているといえる。講義の聞き取りやすさの評価が低い講義において、学生のコメントから対策を考えると、講義の話す声の大きさと明瞭さが改善されればよいことがあげられる。

○質問2：「講義を進めるスピードは適切だったか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で86%であった。教員別に見ると、最高95%、最低73%であった。85%以上を評価された教員が6人で、全体的にみても評価が高く、講義はスムーズに実施されていると言える。講義を進めるスピードは早すぎるよりは、むしろ不消化を起こさない程度のゆっくりのスピードがよいかもしれない。

○質問3：「講義において板書の仕方や配布プリントあるいはOHP（液晶プロジェクター）などの視聴覚機器は適切でしたか」

多くの教員が視聴覚機器を使用した講義を行っているようで、本質問に対する学生の評価は学科平均で71%であった。教員別に見ると、最高96%、最低26%であった。80%以上の評価をされた教員が5人いたが、30%以下の評価を受けた教員も2人いた。学生のコメントから、ビデオやプロジェクターを有効に併用し、プリントを配布することが理解を深めるようである。プリントなどは説明を十分に説明できる内容であるかを配慮することも大事である。また、OHPなどを使用する場合は、レイアウト（文字サイズ・フォント、デザイン、配色、構図、図・写真の挿入、配置等）の改善が必要である。

○質問4：「教員は受講生の私語や途中入室・退室などに注意をしていましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で50%であった。教員別に見ると、最高71%、最低15%であった。

○本項目（質問1～3）の総合的評価

講義方法において1から3を平均し、総合的にみた場合、良いと考えている学生%は平均77%で、50%台2名、70%台5名、80%台3名、90%1名という結果になった。

平均約80%は比較的良い数値と考えられ、殆どが適切な講義方法で実施されていると考えられる。しかしながら、次項で述べる専門科目と比較するとやや評価が低かった。

【講義方法に関する項目】

○質問5：「配布したシラバスは講義の内容・進め方について解りやすく書いてありましたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で71%であった。教員別に見ると、最高83%、最低46%であった。

○質問6：「この講義全体の目標をよく理解できましたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で89%であった。教員別に見ると、最高99%、最低74%であった。90%以上の評価を受けた教員が6名おり、最低でも7割程度を取得しているの、特に改善は求められないと思われる。

○質問7：「この講義に興味をもてましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で92%であった。教員別に見ると、最高100%、最低でも77%であった。全般的に高い評価であり、殆どの学生が講義に興味を持っているので、このまま維持したい。

○質問8：「毎回の講義のねらいはその都度明確にされてきましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で83%であった。教員別に見ると、最高92%、最低74%であった。5人の教員が85%以上の評価を受けた。

○質問9：「講義の内容はよく準備されたものと感じられましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で95%であった。教員別に見ると、2人の教員が最高の100%、最低85%であった。各教員の講義準備は多くの学生が高く評価している。

○質問10：「講義での説明は理解しやすかったか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で84%であった。教員別に見ると、最高98%、最低71%であった。90%以上と評価された教員が5人いた。

○質問11：「講義の内容は難しく（難易度）感じましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で85%であった。教員別に見ると、最高93%、最低69%で

あった。85%以上と評価された教員が7人であった。難易度は全般的に適切であると考えられる。

○質問12：「講義内容の量は、適切でしたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で79%であった。教員別に見ると、最高91%、最低62%であった。85%以上を評価された教員は4人であった。講義内容の量については全般的に適切であると考えられる。

講義内容に関する質問5～12の平均85%という結果は適切な講義内容が実施されていると考えられる。また、質問5「シラバス」については、スコアが非常に低い科目も一部みられ、全体的にスコアが低かった。専門基礎科目という性格上、シラバスの作成・解説等には注意する必要がある。

【学生自身の学習態度に関する項目】

○質問13：「この講義に興味を持ち、自主的に調べたことはありますか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で41%であった。教員別に見ると、最高63%、最低20%であった。全般的に低い結果となった。

○質問14：「この講義について、予習しましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で60%であった。教員別に見ると、最高86%、最低26%であった。大変ばらつきの多い結果となった。

○質問15：「復習をしましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で77%であった。教員別に見ると、最高95%、最低33%であった。

○本項目（質問13～15）の総合的評価

学生自身の学習態度は3項目の平均で59%、自主性が41%、予習が60%、復習が77%と講義方法や講義内容と比較して低い評価にとどまっているものの、平成15年度（54%）および平成16年度（52%）と比較では、改善の傾向が伺われる。専門基礎科目は学生が低年次に受講する科目である。したがって、これら専門基礎科目を通して学生の自学自習を促進し、習慣づけることの意義は極めて大きいと考えられ、今後の大幅な改善が望まれる。

表 1-1 食料生産科学科 専門基礎科目の集計結果（科目別）

		講 義 科 目											
質問番号	質 問 内 容	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	平均
「この授業方法に関する項目」													
質問 1	講義は聞き取りやすかった	69	77	70	79	70	90	81	90	83	87	33	75
質問 2	講義のスピードは適切だった	77	73	82	90	82	95	86	97	93	74	95	86
質問 3	視聴覚機器は適切であった	79	76	26	66	26	83	65	96	81	90	96	71
質問 4	私語などを注意していた	20	64	67	30	67	43	63	64	47	71	11	50
平均（1-3）		75	75	59	78	59	89	77	94	86	84	75	77
「講義の内容に関する項目」													
質問 5	シラバスはわかりやすかった	46	71	78	64	78	83	74	75	75	77	60	71
質問 6	講義の目標は理解できた	82	93	89	86	89	95	74	91	99	90	91	89
質問 7	講義に興味を持てた	97	99	89	77	89	100	86	94	96	90	91	92
質問 8	ねらいは明確にされていた	82	84	85	74	85	83	77	88	92	92	76	83
質問 9	授業の内容は準備されていた	95	97	93	96	93	95	100	100	96	85	98	95
質問10	説明は理解しやすかった	90	92	74	75	74	98	86	97	94	71	76	84
質問11	難易度は適切であった	93	84	85	81	85	88	91	90	82	69	86	85
質問12	内容の量は適切であった	87	87	78	69	78	85	91	82	65	62	84	79
平均（5-12）		84	88	84	78	84	91	85	90	87	80	83	85
「学生自身の学習態度に関する項目」													
質問13	自主的に調べたことがある	20	51	63	20	63	43	58	21	31	31	55	41
質問14	予習した	33	73	67	43	67	72	77	61	56	86	26	60
質問15	復習した	79	91	78	56	78	95	79	81	82	93	33	77
平均（13-15）		44	72	69	40	69	70	71	54	56	70	38	59

数値は左の評価結果に該当する割合（％）を示す。

(2) 専門科目

1) 対象教員、講義科目数および受講（アンケート回答）学生数

食料生産科学科教員のうち、講義科目担当教員（教授、助教授、講師）の19名を対象として、15質問項目について集計した。なお、複数教員により担当される科目は集計から除外した。集計科目数は26科目であり、教員一人当りの科目数は1～3科目である。今年度は専門基礎科目と専門科目を分けて集計しているため、集計科目数が前年度に比べて若干減少しているが、実際の授業科目担当状況は基本的に平成16年度調査時とほぼ同じである。1科目当りのアンケート回答者数は最少で9名、最大で111名であり、平均は51.8名であった。

2) 集計結果および分析

H17年度の集計結果を表1-2に示す。表中では各教員がアルファベットで表記されている。集計結果の概要は以下のとおりである。

【講義方法に関する項目】

○質問1：「講義は聞き取りやすかったかですか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で82%であった。教員別に見ると、最高99%、最低39%であった。85%以上を評価された教員が8人おり、概して学生には聞き取りやすい講義が行われているといえる。

○質問2：「講義を進めるスピードは適切だったか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で84%であった。教員別に見ると、最高100%、最低60%であった。85%以上を評価された教員が11人で、全体的にみても評価が高く、講義はスムーズに実施されていると言える。

○質問3：「講義において板書の仕方や配布プリントあるいはOHP（液晶プロジェクター）などの視聴覚機器は適切でしたか」

多くの教員が視聴覚機器を使用した講義を行っているようで、本質問に対する学生の評価は学科平均で82%であった。教員別に見ると、最高100%、最低45%であった。85%以上の評価をされた教員が8人いた。

○質問4：「教員は受講生の私語や途中入室・退室などに注意をしていましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で49%であった。教員別に見ると、最高86%、最低12%であった。

○本項目（質問1～3）の総合的評価

講義方法において1から3を平均し、総合的にみた場合、良いと考えている学生%は平均83%で、60%台1名、70%台5名、80%台7名、90%5名という結果になった。

学科平均で83%の学生が高い評価をしている。この数値は、平成15年度（75%）および平成16年

度（79%）と比較しても高い数値であり、講義方法が全体的に改善されている傾向が伺われる。この中で、一部の教員では、学生の満足度の低い項目が散見され、今後一層の改善が望まれる。

【講義内容に関する項目】

○質問5：「配布したシラバスは講義の内容・進め方について解りやすく書いてありましたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で81%であった。教員別に見ると、最高100%、最低61%であった。7人の教員が85%以上の評価を受けた。

○質問6：「この講義全体の目標をよく理解できましたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で89%であった。教員別に見ると、最高100%、最低76%であった。95%以上の評価を受けた教員が5名おり、最低でも7割程度を取得しているため、特に改善は求められないと思われる。

○質問7：「この講義に興味をもてましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で86%であった。教員別に見ると、最高100%、最低でも71%であった。全般的に高い評価であり、殆どの学生が講義に興味を持っているので、このまま維持したい。

○質問8：「毎回の講義のねらいはその都度明確にされていきましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で85%であった。教員別に見ると、最高100%、最低67%であった。7人の教員が90%以上の評価を受けた。

○質問9：「講義の内容はよく準備されたものと感じられましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で97%であった。教員別に見ると、4人の教員が最高の100%、最低91%であった。各教員の講義準備は多くの学生が高く評価している。

○質問10：「講義での説明は理解しやすかったか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で85%であった。教員別に見ると、最高100%、最低60%であった。90%以上と評価された教員が7人いた。

○質問11：「講義の内容は難しく（難易度）感じましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で81%であった。教員別に見ると、最高100%、最低56%であった。85%以上と評価された教員が7人であった。難易度は全般的に適切であると考えられる。

○質問12：「講義内容の量は、適切でしたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で74%であった。教員別に見ると、最高91%、最低50%であった。80%以上を評価された教員は6人であった。講義内容の量については全般的に適切であると考えられる。

講義内容に関する質問5～12の平均85%という結果は適切な講義内容が実施されていると考えられる。これは平成15年度（82%）および平成16年度（83%）と比較しても良い結果であり、講義内容についても、講義方法と同様に全体的な改善の傾向が伺われる。

また、質問5「シラバス」の結果は81%、これは平成15年度（68%）および平成16年度（71%）と比較して、改善の努力が伺える。一方、質問12「内容の量」については、適切と解答した学生の割合の学科平均値が74%と低かった。「難易度」の評価については、これまでの報告に比べ改善の兆しがみられるものの、平成17年度の結果でも同様の傾向がみられることから、今後も講義方法と併せた講義内容の改善を継続する必要がある。

【学生自身の学習態度に関する項目】

○質問13：「この講義に興味を持ち、自主的に調べたことはありますか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で41%であった。教員別に見ると、最高63%、最低20%であった。全般的に低い結果となった。

○質問14：「この講義について、予習しましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で60%であった。教員別に見ると、最高86%、最低26%であった。大変ばらつきの多い結果となった。

○質問15：「復習をしましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で77%であった。教員別に見ると、最高95%、最低33%であった。

○本項目（質問13～15）の総合的評価

学生自身の学習態度は3項目の平均で55%、自主性が35%、予習が56%、復習が73%と講義方法や講義内容と比較して低い水準にとどまっている。この数値は平成15年度（54%）および平成16年度（52%）と比較しても変化がみられず、上記の「講義方法」および「講義内容」と比較すると、改善の度合いが不明瞭である。したがって、今後は学科全体で学生の自学自習を促進するような授業改善をすすめる必要であろう。

表 1-2 食料生産科学科 専門科目の集計結果（教員別）

		担 当 教 員																		
質問番号	質 問 内 容	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	平均
「この授業方法に関する項目」																				
質問 1	講義は聞き取りやすかった	79	89	82	99	81	79	80	84	63	90	89	89	84	93	87	39	71	97	82
質問 2	講義のスピードは適切だった	90	82	93	93	79	71	60	88	96	62	87	78	95	90	77	93	86	100	84
質問 3	視聴覚機器は適切であった	66	76	80	99	72	88	45	81	74	93	95	100	95	91	83	88	83	73	82
質問 4	私語などを注意していた	30	72	80	44	34	45	65	86	22	35	79	44	34	80	37	12	73	15	49
平均（1-3）		78	82	85	97	77	79	62	84	78	82	90	89	91	91	82	73	80	90	83
「講義の内容に関する項目」																				
質問 5	シラバスはわかりやすかった	64	61	79	88	83	83	65	72	96	97	92	100	93	72	80	74	80	85	81
質問 6	講義の目標は理解できた	86	76	87	97	94	95	80	84	93	93	98	89	84	83	93	81	97	100	89
質問 7	講義に興味を持てた	77	71	87	89	81	95	75	93	78	86	98	89	86	85	90	72	90	100	86
質問 8	ねらいは明確にされていた	74	80	80	93	83	91	75	79	81	100	97	89	91	85	97	67	82	91	85
質問 9	授業の内容は準備されていた	96	97	96	99	91	93	90	93	100	97	99	100	98	98	97	93	100	100	97
質問10	説明は理解しやすかった	75	74	86	97	81	98	65	91	78	97	97	89	79	77	97	60	86	100	85
質問11	難易度は適切であった	81	62	83	84	89	93	65	86	85	90	83	56	79	74	77	93	80	94	81
質問12	内容の量は適切であった	69	76	73	81	77	62	60	79	63	52	82	89	81	78	50	91	78	82	74
平均（5-12）		78	75	84	91	85	89	72	85	84	89	93	88	86	82	85	79	87	94	85
「学生自身の学習態度に関する項目」																				
質問13	自主的に調べたことがある	20	19	26	40	28	57	30	23	41	62	35	56	28	38	37	19	29	39	35
質問14	予習した	43	43	51	60	49	78	70	79	48	100	56	56	51	40	50	37	47	46	56
質問15	復習した	56	60	77	77	77	97	80	86	56	96	77	89	72	63	90	47	59	61	73
平均（13-15）		40	41	51	59	51	77	60	63	48	86	56	67	50	47	59	34	45	49	55

数値は左の評価結果に該当する割合（％）を示す。

B. 生物環境科学科

(1) 専門基礎科目

1) 対象科目数および受講（アンケート回答）学生数

学科専門基礎科目13科目（必修9科目，選択4科目）を対象として，15質問項目について集計した。このうち，教員一人が単独で担当した科目が5科目，複数の教員が分担して担当した科目が8科目である。なお，必修科目の1科目当りのアンケート回答数は最少で45名，最大で72名であり，平均は66名であった。また，選択科目の1科目当りのアンケート回答数は最少で9名，最大で34名であり，平均は21名であった。

2) 集計結果および分析

H17年度の集計結果を表2-1に示す。表中では各講義科目がアルファベットで表記されている。集計結果の概要は以下のとおりである。

【講義方法に関する項目】

講義方法に関する総合評価（質問1－質問3の平均）では，学科平均で80%の学生が高い評価をしており，概ね良好な評価が得られていると言ってよいであろう。しかしながら，次項で述べる専門科目と比較するとやや評価が低かった。専門基礎科目は複数教員の担当による講義が多いため講義方法も多様であり，このことが単独教員が担当することの多い専門科目と比較してやや低い評価に影響した可能性もある。これらの科目については，各担当者別の授業評価の実施や，担当者間での情報交換等を通じた授業改善を考えていく必要がある。

【講義内容に関する項目】

講義内容に関する総合評価（質問5－質問12の平均）では，学科平均で82%の学生が高い評価をしており，概ね良好な評価が得られているが，上記の講義方法と同様に，専門科目と比較するとやや評価が低かった。とくに，質問10「説明のわかりやすさ」や質問11「難易度」については，スコアが非常に低い科目も一部みられることから，今後は基礎科目としての性格を考慮した授業内容の再検討も必要であろう。また，質問5「シラバス」についても，全体的にスコアが低かった。この理由として，専門基礎科目は1年次開講の必修講義が多いため，学生への周知が不十分であったことも考えられ，学科としての改善が必要かもしれない。

【学生自身の学習態度に関する項目】

学生自身の学習態度に関する総合評価（質問13－質問15の平均）では，高い評価をした学生の割合が学科平均で56%であり，次項の専門科目と比較するとやや高いものの，講義方法や講義内容と比較して低い評価にとどまっている。専門基礎科目は学生が低年次に受講する科目である。したがって，これら専門基礎科目を通して学生の自学自習を促進し，習慣づけることの意義は極めて大きいと考えられ，今後の大幅な改善が望まれる。

表 2-1 生物環境科学科 専門基礎科目の集計結果（科目別）

		講 義 科 目													
質問番号	質 問 内 容	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	平均
「この授業方法に関する項目」															
質問 1	講義は聞き取りやすかった	71	77	80	81	93	92	62	87	86	95	89	76	100	84
質問 2	講義のスピードは適切だった	88	69	91	78	95	69	57	78	79	86	61	85	100	80
質問 3	視聴覚機器は適切であった	58	66	67	89	78	92	71	87	88	95	83	32	89	76
質問 4	私語などを注意していた	53	42	84	65	89	76	10	76	80	33	94	97	78	68
平均（1-3）		72	71	79	83	88	84	63	84	84	92	78	65	96	80
「講義の内容に関する項目」															
質問 5	シラバスはわかりやすかった	41	63	64	59	83	76	43	73	73	86	72	74	44	65
質問 6	講義の目標は理解できた	75	86	90	89	93	93	62	82	86	90	78	97	78	85
質問 7	講義に興味を持てた	96	99	86	96	94	92	63	98	88	90	78	97	67	88
質問 8	ねらいは明確にされていた	60	75	77	89	91	92	75	91	91	90	78	100	78	84
質問 9	授業の内容は準備されていた	90	87	86	100	95	97	87	98	95	100	89	100	89	93
質問10	説明は理解しやすかった	70	83	86	96	85	93	62	87	82	95	78	97	78	84
質問11	難易度は適切であった	81	89	87	96	86	80	44	82	77	76	78	79	100	81
質問12	内容の量は適切であった	79	79	88	87	86	54	82	78	65	81	72	97	56	77
平均（5-12）		74	83	83	89	89	85	65	86	82	89	78	93	74	82
「学生自身の学習態度に関する項目」															
質問13	自主的に調べたことがある	34	37	30	30	37	34	19	24	39	24	28	32	11	29
質問14	予習した	32	52	41	57	74	75	49	62	88	48	56	41	56	56
質問15	復習した	88	82	88	81	91	90	72	87	97	62	78	94	67	83
平均（13-15）		51	57	53	56	67	66	47	58	75	44	54	56	44	56

数値は左の評価結果に該当する割合（％）を示す。

(2) 専門科目

1) 対象教員、講義科目数および受講（アンケート回答）学生数

生物環境科学科教員のうち、講義科目担当教員（教授、助教授）の27名を対象として、15質問項目について集計した。なお、複数教員により担当される科目は集計から除外した。集計科目数は45科目であり、教員一人当たりの科目数は1～3科目である。今年度は専門基礎科目と専門科目を分けて集計しているため、集計科目数が前年度に比べて若干減少しているが、実際の授業科目担当状況は基本的に平成16年度調査時とほぼ同じである。1科目当たりのアンケート回答者数は最少で1名、最大で69名であり、平均は38名であった。

2) 集計結果および分析

H16年度の集計結果を表2-2に示す。表中では各教員がアルファベットで表記されている。集計結果の概要は以下のとおりである。

【講義方法に関する項目】

講義方法に関する総合評価（質問1－質問3の平均）では、学科平均で86%の学生が高い評価をしている。この数値は、平成15年度（80%）および平成16年度（79%）と比較しても高い数値であり、講義方法が全体的に改善されている傾向が伺われる。この中で、一部の教員では、学生の満足度の低い項目が散見され、今後一層の改善が望まれる。とくに、質問3「板書、配布プリント、視聴覚機器の適切さ」については、他の項目よりもスコアが低いことから、今後の改善すべき課題であろう。

【講義内容に関する項目】

講義内容に関する総合評価（質問5－質問12の平均）では、学科平均で87%の学生が高い評価をしている。これは平成15年度（82%）および平成16年度（83%）と比較しても高い数値であり、講義内容についても、講義方法と同様に全体的な改善の傾向が伺われる。講義内容に関する質問項目の中で、とくに評価が高かったのは質問9「授業内容の準備」であり、各教員が十分に授業の準備をして講義に臨んでいることが伺われた。一方、質問11「難易度」および質問12「内容の量」については、適切と解答した学生の割合の学科平均値が低かった。「難易度」の評価については、平成16年度報告書で「授業のスピード」と高い相関があることが示され、講義方法の改善と併せた講義内容の改善を行うことの重要性が指摘されている。平成17年度の結果でも同様の傾向がみられることから、今後も講義方法と併せた講義内容の改善を継続する必要がある。

【学生自身の学習態度に関する項目】

学生自身の学習態度に関する総合評価（質問13－質問15の平均）では、高い評価をした学生の割合が学科平均で50%と低い水準にとどまっている。この数値は平成15年度（52%）および平成16年度（52%）と比較してもやや低く、上記の「講義方法」および「講義内容」と比較すると、改善の度合いが不明瞭である。したがって、今後は学科全体で学生の自学自習を促進するような授業改善をすすめる必要であろう。

表 2-2 生物環境科学科 専門科目の集計結果（教員別）

		担 当 教 員																											
質問番号	質 問 内 容	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	平均
「この授業方法に関する項目」																													
質問 1	講義は聞き取りやすかった	100	65	100	91	90	100	95	69	89	98	93	93	82	91	66	78	92	58	99	83	100	95	90	100	90	91	89	88
質問 2	講義のスピードは適切だった	91	90	94	85	91	100	95	48	87	91	81	91	68	94	86	80	95	81	94	80	98	92	69	100	97	78	77	86
質問 3	視聴覚機器は適切であった	83	77	100	96	73	100	90	37	60	86	64	61	84	87	71	99	86	66	94	88	99	88	90	83	94	79	95	83
質問 4	私語などを注意していた	98	49	76	57	56	100	15	64	64	62	22	57	70	58	58	81	78	50	51	78	50	37	76	22	34	64	84	60
平均（1-3）		91	77	98	91	85	100	93	51	79	92	79	82	78	91	74	86	91	68	96	84	99	92	83	94	94	83	87	86
「講義の内容に関する項目」																													
質問 5	シラバスはわかりやすかった	91	88	85	94	84	100	90	70	82	77	85	91	82	76	76	88	92	62	94	85	93	82	87	100	86	78	86	85
質問 6	講義の目標は理解できた	96	90	94	96	93	100	100	83	82	81	93	96	91	85	80	99	95	68	95	89	99	95	94	100	96	93	83	91
質問 7	講義に興味を持てた	91	87	91	96	92	100	85	72	82	91	88	86	86	82	71	98	92	60	90	82	98	82	95	100	97	97	73	88
質問 8	ねらいは明確にされていた	91	87	97	98	93	0	95	88	87	94	86	88	93	77	84	99	97	69	95	81	95	92	98	94	93	98	84	87
質問 9	授業の内容は準備されていた	96	97	97	96	99	100	95	89	91	93	98	91	98	92	93	100	100	90	99	96	98	97	100	100	97	97	98	96
質問10	説明は理解しやすかった	96	80	94	89	93	100	100	58	91	96	87	93	89	79	62	94	95	47	97	77	98	91	87	100	96	95	80	88
質問11	難易度は適切であった	80	79	85	83	81	100	100	33	76	77	90	88	70	86	68	67	92	48	79	73	92	75	66	78	88	84	70	78
質問12	内容の量は適切であった	85	76	71	87	85	100	100	43	87	91	59	93	66	90	57	70	95	68	82	61	97	70	81	100	92	66	61	79
平均（5-12）		91	86	89	92	90	88	96	67	85	88	86	91	84	83	74	89	95	64	91	81	96	86	89	97	93	89	79	87
「学生自身の学習態度に関する項目」																													
質問13	自主的に調べたことがある	37	22	24	55	33	0	20	31	16	30	37	31	30	42	20	37	57	16	25	32	31	28	20	44	52	31	16	30
質問14	予習した	57	60	68	55	52	0	35	53	51	67	42	59	57	43	50	68	22	34	64	55	53	64	57	39	51	48	52	50
質問15	復習した	78	74	82	81	74	0	45	75	78	75	64	78	70	68	68	87	100	55	75	67	70	84	74	56	79	64	56	70
平均（13-15）		57	52	58	64	53	0	33	53	48	57	48	56	52	51	46	64	60	35	55	51	51	59	50	46	61	48	41	50

数値は左の評価結果に該当する割合（％）を示す。

C. 地域農業システム学科

(1) 専門基礎科目

1) 対象科目数および受講（アンケート回答）学生数

学科専門基礎科目10科目（すべて選択科目）を対象として、15質問項目について集計した。このうち、教員一人が単独で担当した科目が8科目、複数の教員が分担して担当した科目が2科目である。なお、単独で担当した科目の1科目当りのアンケート回答数は最少で18名、最大で60名であり、平均は34名であった。また、複数教員担当の1科目当りのアンケート回答数は最少で28名、最大で46名であり、平均は37名であった。

2) 集計結果および分析

H17年度の集計結果を表3-1に示す。表中では各担当教員がアルファベットで表記されている。教員のアルファベットは転出者を空白にして充当せず、その他は平成15、16年度調査時と同じとした。集計結果の概要は以下のとおりである。

【講義方法に関する項目】

講義方法に関する総合評価（質問1－質問3の平均）では、学科平均で76%の学生が高い評価をしており、概ね良好な評価が得られていると思われる。次項で述べる専門科目の78%と比較しても同程度であったが、専門基礎科目は複数教員の担当による講義が多いため、専門科目と比較してわずかに評価が低くなった可能性が考えられる。

また、担当教員別の総合評価では最低46%、最高が96%と評価結果の幅が広い上に、評価が50%程度の担当教員が2名あった。これらの科目については、各担当者別の授業評価の実施や情報交換等を通じた授業改善を考えていく必要がある。

【講義内容に関する項目】

講義内容に関する総合評価（質問5－質問12の平均）では、学科平均で80%の学生が高い評価をしており、概ね良好な評価が得られているが、上記の講義方法と同様に、専門科目の84%と比較するとやや評価が低かった。また、最低56%、最高が97%と評価の幅が広い上に、評価が60%程度の科目が2科目あった。

特に、質問10「説明のわかりやすさ」や質問11「難易度」については、スコアが14%と非常に低い科目も一部みられることから、今後は基礎科目として性格を考慮した授業内容の再検討も必要である。また、質問5「シラバス」についても、全体的にスコアが最高100%、最低が38%とばらついており、特定の科目に低評価が集中している。この理由として、専門基礎科目は1年次開講の必修講義が多いため、はじめてシラバスに接する学生へ内容の周知を十分行う機会のないことやシラバスの内容が更新されておらず授業内容と一致しないなどの問題が考えられる。今後、1年生へのシラバスの運用方法などについて改善対策が必要と思われる。

【学生自身の学習態度に関する項目】

学生自身の学習態度に関する総合評価（質問13－質問15の平均）では、高い評価をした学生の割合が学科平均で60%であり、次項の専門科目の57%と比較するとやや高いものの、講義方法（76%）や講義内容（80%）と比較して低い評価にとどまっている。また、スコアの最高が69%、最低が55%であり、講義方法や講義内容と比較して科目ごとの幅が小さくなっている。従って、担当教員ごとの違いによる差はあまり認められず、教員全般的に学生の学習態度に対する対応が不十分であると考えられる。専門基礎科目は学生が低年次に受講する科目であるため、講義を通じて学生の自学自習を促進し、習慣づけるよう配慮する必要があると考えられる。

表 3-1 地域農業システム学科 専門基礎科目の集計結果（科目別）

		講 義 科 目										
質問番号	質 問 内 容	A	B	C	E	G	H	I	L	N	P	平均
「この授業方法に関する項目」												
質問 1	講義は聞き取りやすかった	98	42	36	90	100	94	73	100	85	97	81
質問 2	講義のスピードは適切だった	93	75	64	90	93	84	75	67	100	100	84
質問 3	視聴覚機器は適切であった	88	62	64	76	89	75	78	89	89	97	81
質問 4	私語などを注意していた	66	38	21	75	86	53	73	61	3.7	90	57
平均（1-4）		86	54	46	83	92	77	75	79	69	96	76
「講義の内容に関する項目」												
質問 5	シラバスはわかりやすかった	38	70	71	75	71	63	74	39	100	79	68
質問 6	講義の目標は理解できた	79	88	43	90	86	91	85	61	100	93	82
質問 7	講義に興味を持てた	84	78	57	95	93	94	85	72	100	90	85
質問 8	ねらいは明確にされていた	91	75	64	90	86	75	90	83	89	86	83
質問 9	授業の内容は準備されていた	100	92	86	95	100	97	95	89	100	93	95
質問10	説明は理解しやすかった	88	70	21	89	96	81	90	50	93	90	77
質問11	難易度は適切であった	77	75	14	83	86	94	67	33	96	90	72
質問12	内容の量は適切であった	88	70	93	70	93	91	73	83	96	72	83
平均（5-12）		80	77	56	86	89	86	82	64	97	87	80
「学生自身の学習態度に関する項目」												
質問13	自主的に調べたことがある	11	20	43	41	32	19	29	44	30	38	31
質問14	予習した	77	78	72	67	61	78	60	50	70	72	69
質問15	復習した	84	88	93	83	71	81	67	78	74	79	80
平均（13-15）		57	62	69	64	55	59	52	57	58	63	60

数値は左の評価結果に該当する割合（％）を示す。

(2) 専門科目

1) 対象教員、講義科目数および受講（アンケート回答）学生数

生物環境科学科教員のうち、講義科目担当教員（教授、助教授）の16名を対象として、15質問項目について集計した。なお、複数教員により担当される科目は集計から除外した。集計科目数は43科目であり、教官一人当たりの科目数は1～3科目である。今年度は専門基礎科目と専門科目を分けて集計しているため、集計科目数が前年度に比べて若干減少しているが、実際の授業科目担当状況は基本的に平成16年度調査時とほぼ同じである。1科目当たりのアンケート回答者数は最少で11名、最大で91名であり、平均は31名であった。

2) 集計結果および分析

H17年度の集計結果を表3-2に示す。表中では各教員がアルファベットで表記されている。集計結果の概要は以下のとおりである。

【講義方法に関する項目】

講義方法に関する総合評価（質問1～質問3の平均）では、学科平均で78%の学生が高い評価をしている。この数値は、平成15年度（76%）および平成16年度（80%）と比較してもほぼ同等の数値であり、講義方法は大きく改善されていないまでも、現状を維持しているものと思われる。この中で、質問1「講義の聞き取りやすさ」と質問4「私語への注意」については、1、2名の教員では、学生の満足度が50%以下となっており、今後一層の改善が望まれる。また、質問1～3の項目の平均スコアが80%以上であるのに比べて、質問4「私語への注意」は平均スコアが64%と低いことから、この点については今後、教員が意識して改善すべき課題である。

【講義内容に関する項目】

講義内容に関する総合評価（質問5～質問12の平均）では、学科平均で84%の学生が高い評価をしている。これは平成15年度（76%）および平成16年度（80%）と比較しても高い数値であり、評価が年々向上していることから、講義内容については、全体的な改善の傾向が認められる。講義内容に関する質問項目の中で、質問5～10は80%以上の学生が評価している。特に評価が高かったのは質問9「授業内容の準備」の94%であり、各教員が十分に授業の準備をして講義に臨んでいることが認識できた。

一方、質問11「難易度」および質問12「内容の量」については、適切と解答した学生の割合が70%台と低かった。担当教員別に見ると、学生の満足度が50%程度となっている場合が散見され、学生の評価にばらつきが認められる。他学科でも指摘されているが、「難易度」の評価については、平成16年度報告書で「授業のスピード」と高い相関があることが示され、講義方法の改善と併せた講義内容の改善を行うことの重要性が指摘されている。平成17年度の結果でも同様の傾向がみられることから、今後も講義方法と併せた講義内容の改善を継続する必要があると言える。

【学生自身の学習態度に関する項目】

学生自身の学習態度に関する総合評価（質問13－質問15の平均）では、高い評価をした学生の割合が学科平均で57%にとどまっている。この数値は平成15年度（55%）および平成16年度（55%）と比較してやや高くなっている。質問13「自主的な調査」は平均で35%、最低で8%、最高で70%となっており、担当教員ごとの評価のバラツキが大きく、低評価の傾向が顕著である。質問15「復習」については、76%の学生が高評価を回答しており、教員ごとのバラツキも少ないことから、レポート課題が出されるような復習には積極的であるが、予習や自習については、積極性が少ない傾向が認められる。従って、今後はレポート課題に加えて、学生の自学自習を促進するような授業改善をすすめる必要がある。

表 3-2 地域農業システム学科 専門科目の集計結果（教員別）

		担 当 教 員																
質問番号	質 問 内 容	A	B	C	D	F	G	H	I	J	L	M	N	O	P	Q	R	平均
「この授業方法に関する項目」																		
質問 1	講義は聞き取りやすかった	98	43	77	75	87	97	83	88	91	88	77	63	100	85	82	88	83
質問 2	講義のスピードは適切だった	96	81	100	73	87	94	87	92	86	83	86	91	96	88	89	75	88
質問 3	視聴覚機器は適切であった	82	71	69	70	87	90	74	92	62	93	71	63	100	91	68	86	79
質問 4	私語などを注意していた	39	48	54	81	61	87	46	80	65	79	53	16	80	93	59	79	64
平均（1-4）		78	61	75	75	81	92	72	88	76	86	72	58	94	89	75	82	78
「講義の内容に関する項目」																		
質問 5	シラバスはわかりやすかった	70	86	77	82	71	94	75	80	80	79	80	77	87	86	85	86	81
質問 6	講義の目標は理解できた	93	95	92	94	71	94	86	88	94	90	86	86	94	92	94	93	90
質問 7	講義に興味を持てた	96	86	92	87	81	90	86	88	90	83	82	93	89	94	89	93	89
質問 8	ねらいは明確にされていた	93	86	92	78	94	100	76	92	90	84	83	88	93	83	96	92	89
質問 9	授業の内容は準備されていた	96	95	100	86	94	97	87	100	98	83	86	98	95	93	97	97	94
質問10	説明は理解しやすかった	94	86	92	62	61	87	85	92	84	74	61	91	84	90	87	84	82
質問11	難易度は適切であった	93	67	62	68	48	65	81	96	63	58	46	88	69	88	76	70	71
質問12	内容の量は適切であった	87	91	77	55	77	87	83	88	74	79	61	81	76	78	78	53	77
平均（5-12）		90	86	86	77	75	89	82	91	84	79	73	88	86	88	88	83	84
「学生自身の学習態度に関する項目」																		
質問13	自主的に調べたことがある	23	29	62	70	19	32	33	8	56	30	28	33	34	40	48	17	35
質問14	予習した	43	62	77	79	71	74	65	56	65	60	63	28	58	54	52	55	60
質問15	復習した	71	57	77	89	87	77	83	68	86	92	79	49	82	66	70	86	76
平均（13-15）		45	49	72	79	59	61	60	44	69	61	56	37	58	53	57	53	57

数値は左の評価結果に該当する割合（％）を示す。

D. 応用生物科学科

(1) 専門基礎科目

1) 対象科目数および受講（アンケート回答）学生数

学科専門基礎科目9科目（すべて必修科目）を対象として、15質問項目について集計した。このうち、教員一人が単独で担当した科目は5科目、複数の教員が分担して担当した科目は4科目である。なお、必修科目の1科目当りのアンケート回答数は最少で53名、最大で174名であり、平均は81名であった。

2) 集計結果および分析

H17年度の集計結果を表4-1に示す。表中では各講義科目がアルファベットで表記されている。集計結果の概要は以下のとおりである。

【講義方法に関する項目】

講義方法に関する総合評価（質問1－質問3の平均）では、学科平均で80%の学生が高い評価をしており、概ね良好な評価が得られていると言ってよいであろう。しかしながら、次項で述べる専門科目と比較すると（86%）やや評価が低かった。専門基礎科目は複数教員の担当による講義があるため、専門科目と比較してやや評価が低くなった可能性もある。これらの科目については、各担当者別の授業評価の実施や、担当者間での情報交換等を通じた授業改善を考えていかなければならないのかもしれない。

【講義内容に関する項目】

講義内容に関する総合評価（質問5－質問12の平均）では、学科平均で84%の学生が高い評価をしており、概ね良好な評価が得られた。質問5「シラバス」についても、全体的にもスコアが高く、学生への周知が十分であったことを示している。質問10「説明のわかりやすさ」や質問11「難易度」については、スコアが低い科目もあるが、回答結果4の「やや満足」と答えたスコアであり、5の「非常に満足」と答えたスコアの方がはるかに上回っていたので問題はない。

【学生自身の学習態度に関する項目】

学生自身の学習態度に関する総合評価（質問13－質問15の平均）では、高い評価をした学生の割合が学科平均で65%であり、次項の専門科目と比較するとやや高いものの、講義方法や講義内容と比較して低い評価にとどまっている。専門基礎科目は学生が低年次に受講する科目である。したがって、これら専門基礎科目を通して学生の自学自習を促進し、習慣づけることの意義は極めて大きいと考えられ、今後の改善が望まれる。

表 4 - 1 教員別の集計結果（応用生物科学科）

		講 義 科 目									
質問番号	質 問 内 容	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
「この授業方法に関する項目」											
質問 1	講義は聞き取りやすかった	32	62	67	91	100	78	90	86	91	77
質問 2	講義のスピードは適切だった	72	87	87	88	92	57	90	91	93	84
質問 3	視聴覚機器は適切であった	28	59	59	94	92	95	93	90	91	78
質問 4	私語などを注意していた	72	62	49	36	49	78	34	43	59	54
平均（1-3）		44	69	71	91	95	77	91	89	91	80
「講義の内容に関する項目」											
質問 5	シラバスはわかりやすかった	51	76	83	88	88	92	92	97	91	84
質問 6	講義の目標は理解できた	77	89	86	84	96	94	89	100	100	91
質問 7	講義に興味を持てた	79	90	81	91	94	90	93	97	96	90
質問 8	ねらいは明確にされていた	83	60	86	94	94	97	93	86	98	88
質問 9	授業の内容は準備されていた	58	89	76	97	100	98	98	97	98	90
質問10	説明は理解しやすかった	62	87	73	90	94	90	87	95	96	86
質問11	難易度は適切であった	81	81	60	68	78	32	70	83	78	70
質問12	内容の量は適切であった	64	89	71	61	79	41	74	86	72	71
平均（5-12）		70	83	77	84	90	79	87	92	91	84
「学生自身の学習態度に関する項目」											
質問13	自主的に調べたことがある	26	48	35	25	44	38	36	43	35	37
質問14	予習した	89	71	75	51	62	83	70	95	76	75
質問15	復習した	89	78	89	72	87	94	74	88	94	85
平均（13-15）		68	66	66	49	65	71	60	75	69	65

数値は左の評価結果に該当する割合（％）を示す。

(2) 専門科目

1) 対象教員、講義科目数および受講（アンケート回答）学生数

応用生物科学科教員のうち、講義科目担当教員（教授、助教授）の15名を対象として、15質問項目について集計した。なお、複数教員により担当される科目は集計から除外した。集計科目数は21科目であり、教員一人当たりの科目数は1～3科目である。今年度は専門基礎科目と専門科目を分けて集計しているため、集計科目数が前年度に比べて若干減少しているが、実際の授業科目担当状況は基本的に平成16年度調査時とほぼ同じである。1科目当たりのアンケート回答数は最少で15名、最大で87名であり、平均は46名であった。

3) 集計結果および分析

H17年度の集計結果を表4-2に示す。表中では各教員がアルファベットで表記されている。集計結果の概要は以下のとおりである。

【講義方法に関する項目】

講義方法に関する総合評価（質問1－質問3の平均）では、学科平均で85%の学生が高い評価をしている。この数値は、平成15年度（69%）および平成16年度（79%）と比較しても高い数値であり、講義方法が全体的に改善されている傾向が伺われる。しかしこの中で、質問3「板書、配布プリント、視聴覚機器の適切さ」については、他の項目よりもスコアが低いところがあり、今後の改善すべき課題であろう。

【講義内容に関する項目】

講義内容に関する総合評価（質問5－質問12の平均）では、学科平均で86%の学生が高い評価をしている。これは平成15年度（78%）および平成16年度（83%）と比較しても高い数値であり、講義内容についても、講義方法と同様に全体的な改善の傾向が伺われる。講義内容に関する質問項目の中で、とくに評価が高かったのは質問9「授業内容の準備」であり、各教員が十分に授業の準備をして講義に臨んでいることが伺われた。一方、質問11「難易度」および質問12「内容の量」については、適切と解答した学生の割合の学科平均値は平成16年度よりはやや上昇したものの、他の評価項目に比べると依然低いスコアであった。「難易度」の評価については、平成16年度報告書で「授業のスピード」と高い相関があることが示され、講義方法の改善と併せた講義内容の改善を行うことの重要性が指摘されている。平成17年度の結果でも同様の傾向がみられることから、今後も講義方法と併せた講義内容の改善を継続する必要がある。

【学生自身の学習態度に関する項目】

学生自身の学習態度に関する総合評価（質問13－質問15の平均）では、高い評価をした学生の割合が学科平均で60%とやや低い水準にとどまっている。この数値は平成15年度（64%）および平成16年度（56%）であり増減を繰り返している。上記の「講義方法」および「講義内容」と比較すると、改善の度合いが不明瞭である。したがって学生の自学自習を導くような授業改善をすすめる必要があるだろう。

表 4-2 教員別の集計結果（応用生物科学科）

		担 当 教 員															
質問番号	質 問 内 容	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	平均
「この授業方法に関する項目」																	
質問 1	講義は聞き取りやすかった	74	96	96	91	59	98	54	62	91	93	35	73	89	100	100	81
質問 2	講義のスピードは適切だった	88	96	76	92	70	79	93	84	96	88	87	78	62	95	100	86
質問 3	視聴覚機器は適切であった	81	87	88	84	84	92	98	49	100	96	87	83	78	98	100	87
質問 4	私語などを注意していた	65	70	69	41	52	14	65	83	26	89	87	84	47	93	55	63
平均（1-3）		81	93	87	89	71	90	81	65	96	92	70	78	76	98	100	84
「講義の内容に関する項目」																	
質問 5	シラバスはわかりやすかった	80	90	88	87	85	95	89	86	83	98	76	93	91	86	100	88
質問 6	講義の目標は理解できた	85	96	94	91	97	89	98	83	96	98	85	93	95	98	95	93
質問 7	講義に興味を持てた	80	92	90	83	98	78	93	77	87	93	74	99	92	93	100	88
質問 8	ねらいは明確にされていた	84	96	85	83	94	98	98	72	91	98	78	94	87	98	95	90
質問 9	授業の内容は準備されていた	94	98	91	96	98	98	98	97	100	100	93	96	89	100	95	96
質問10	説明は理解しやすかった	79	95	88	82	67	83	87	59	91	95	76	86	83	98	95	84
質問11	難易度は適切であった	75	90	75	70	60	75	80	63	74	70	83	71	78	86	82	75
質問12	内容の量は適切であった	75	82	70	81	62	73	76	69	74	52	76	65	40	84	95	72
平均（5-12）		81	93	85	84	82	86	90	76	87	88	80	87	82	93	95	86
「学生自身の学習態度に関する項目」																	
質問13	自主的に調べたことがある	17	22	28	24	62	24	39	22	22	32	20	34	43	23	82	33
質問14	予習した	56	63	90	77	77	60	94	62	65	54	65	61	60	64	68	68
質問15	復習した	72	78	93	90	95	63	89	79	78	79	72	74	75	82	95	81
平均（13-15）		48	54	70	64	78	49	74	54	55	55	52	56	59	56	82	60

数値は左の評価結果に該当する割合（％）を示す。

E. 獣医学科

1) 対象科目数および受講（アンケート回答）学生数

学科専門36科目（すべて必修）を対象として、15質問項目について集計した。このうち、教員一人が単独で担当した科目が30科目、複数の教員が分担して担当した科目が6科目である。なお、1科目当たりのアンケート回答数は最少で11名、最大で37名であり、平均は28名であった。

2) 集計結果および分析

H17年度の集計結果を表5に示す。本集計では、教員間で公平となるように、獣医学科所属学生が各教員個人に与えた授業評価のみを取りまとめた。ただし、複数の教員が分担して担当した6科目のうち、個人別に授業評価が実施されていない4科目については、複数教員（この場合は2名）による授業評価として集計した。集計結果の概要およびそれに対するコメントは以下のとおりである。

【講義方法に関する項目】

講義方法に関する総合評価（質問1－質問3の平均）では、学科平均で80%の学生が高い評価を与えており、概ね良好な評価が得られたと言って良い。この数値は前年度の平均値が72%であったことから、平成16年度の結果を踏まえて各教員が努力したことによって向上したものと考えられる。しかしながら、この数値が60%以下の教員が4名おり、今後の改善に期待する。

【講義内容に関する項目】

講義内容に関する総合評価（質問5－質問12の平均）では、学科平均で83%の学生が高い評価を与えていた。この値は昨年度から、3ポイントほど上昇しており、講義内容に関しても、講義方法と同様に、平成16年度の結果を踏まえて各教員が努力したことが窺える。また、この数値が60%以下の教員が平成16年度には1名いたが、本年度では0名となり、該当する教員が努力したことが考えられ、授業評価がうまく機能していると思われた。

各質問項目については、質問5のシラバス、質問11の難易度、および質問12の授業内容の量に関する各項目については、全体的にスコアが低かった。シラバスに関しては、教員間において活用方法や周知の仕方に個人差が見られること、活用方法を学生が熟知していないことなどが考えられる。質問11の難易度および質問12の授業内容の量に関してスコアが低かった理由については、国家試験の出題項目を漏れなく時間内に教授しなくてはならないという獣医学科の事情を反映したものかも知れない。この点については、国家試験科目以外の科目を担当した教員においては、その授業評価と今回の結果とを比較することによって、その理由が明確になるものと考えられる。

【学生自身の学習態度に関する項目】

学生自身の学習態度に関する総合評価（質問13－質問15の平均）では、高い評価をした学生の割合が学科平均で69%であった。この数値も前年度から、6ポイントほど上昇しており、各教員が予習・復習を学生に積極的に促した成果だと思われる。しかし、講義方法や講義内容と比較すると低い評価にとどまっており、一層、学生の自学自習を促進し、習慣づける必要がある。

【総合評価についての2年間の比較】

平成16および17年度の2年間における、各教員別の授業評価を総合的にスコア化して、図1に示した。ここでは、学生に対して注意したかどうかの質問4と、学生自身の学習態度に関する評価の質問13～質問15を除いて、質問1～質問3および質問5～質問12を用いて総合評価した。スコア化の方法は、質問1～質問3および質問5～質問10では5段階評価のうち最も良い5のみを、質問11および質問12については最も良い評価である4のみを、全体の何%の学生が回答したかを算出して、それらを平均してスコア化した。

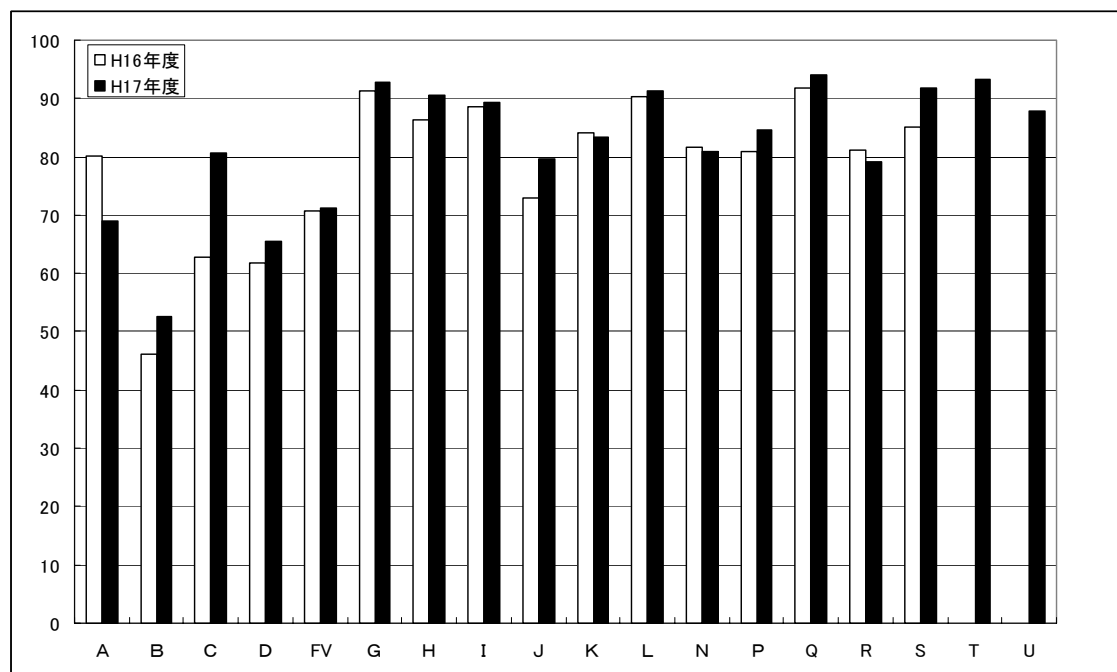


図1

図1から、B、C、J、Sの各教員が前年度から5ポイント以上、特にC教員は18ポイントも上昇していた。このことは、該当する4名の教員が授業評価を真摯に受け止め、特段の改善に努めたことを示しており、各教員に敬意を表したい。またこのように4名もの教員に顕著な授業改善が見られたことは、授業評価の実施が授業改善に確実に繋がっていることを示しており、今後とも継続することに意義があると思われる。

表5 獣医学科の集計結果（教員別）

		担 当 教 員																		
質問番号	質 問 内 容	A	B	C	D	F	G	H	I	J	K	L	N	P	Q	R	S	T	U	平均
「この授業方法に関する項目」																				
質問1	講義は聞き取りやすかった	69	14	75	58	76	94	98	98	74	86	93	92	91	94	85	90	98	93	82
質問2	講義のスピードは適切だった	75	31	90	57	58	93	94	97	87	100	90	74	86	94	54	97	86	78	80
質問3	視聴覚機器は適切であった	59	34	58	41	65	99	86	70	92	68	97	77	91	94	78	97	100	96	78
質問4	私語などを注意していた	75	62	19	61	22	21	14	15	29	9	31	18	19	13	12	14	48	33	29
平均（1-3）		68	26	74	52	66	95	93	88	84	85	93	81	89	94	72	94	95	89	80
「講義の内容に関する項目」																				
質問5	シラバスはわかりやすかった	69	52	66	72	62	97	84	73	58	64	79	52	52	100	64	72	79	59	70
質問6	講義の目標は理解できた	75	76	95	94	86	99	99	98	86	77	97	95	95	100	97	93	100	93	92
質問7	講義に興味を持てた	59	90	92	92	96	97	96	95	82	82	90	92	95	97	86	100	98	96	91
質問8	ねらいは明確にされていた	75	62	85	67	81	99	94	97	75	82	97	72	89	100	83	90	100	93	85
質問9	授業の内容は準備されていた	69	72	93	82	92	100	97	98	91	91	100	88	80	97	95	97	100	89	91
質問10	説明は理解しやすかった	75	45	85	68	80	99	93	91	70	86	97	93	92	94	83	90	98	96	85
質問11	難易度は適切であった	59	62	73	57	47	60	73	77	87	91	86	70	80	88	83	93	82	89	75
質問12	内容の量は適切であった	75	41	75	33	39	85	83	89	73	91	79	83	79	78	63	93	86	85	74
平均（5-12）		70	63	83	71	73	92	90	90	78	83	91	81	83	94	82	91	93	88	83
「学生自身の学習態度に関する項目」																				
質問13	自主的に調べたことがある	56	52	35	63	65	66	52	42	23	36	55	66	66	66	53	66	65	63	55
質問14	予習した	91	72	52	86	72	96	73	66	51	59	59	87	63	75	70	79	58	56	70
質問15	復習した	91	90	78	91	86	97	88	85	60	68	69	88	77	94	78	86	74	74	82
平均（13-15）		79	71	55	80	74	86	71	64	45	55	61	80	68	78	67	77	66	64	69

数値は左の評価結果に該当する割合（％）を示す。

4. 大学院修士課程における授業評価結果

A. 生物生産科学専攻

1) 対象教員，講義科目数および受講（アンケート回答）学生数

講義科目担当教員（教授，助教授，講師）の20名を対象として，15質問項目について集計した。なお，アンケート結果未提出の教員は集計から除外した。また，複数教員で担当されている科目のアンケート結果も，集計から除外した。集計した科目の数は9科目であった。1科目当りの受講学生数は最少で2名，最大で8名であり，平均は5名であった。

2) 集計結果および分析

H17年度の集計結果を表6に示す。表中では各教員がアルファベットで表記されている。集計結果の概要は以下のとおりである。

【講義方法に関する項目】

講義方法に関する総合評価（質問1－質問5の平均）では，専攻平均で95%の学生が高い評価をしている。とくに，質問3「配布資料」および質問5「教員の対応」については，平均で95%の学生が満足しており，ほとんどの科目で少人数講義のメリットが十分に発揮されているものと思われる。一方，質問2「視聴覚機器」については，適切と評価した学生の割合が平均で81%と低い傾向にあった。この結果は，演習等を含むような大学院の講義形式とも関連するとも思われるが，評価の低かった科目では今後の改善が望まれる。

【講義内容に関する項目】

講義内容に関する総合評価（質問6－質問12の平均）では，専攻平均で95%の学生が高い評価をしており，質問7「講義の目標」，質問8「興味」，質問8「説明のわかりやすさ」では特にスコアが高い傾向にあった。一方，質問10「難易度」，質問12「有益な情報や示唆」の面では，評価が低い傾向にある科目が多かった。これは，大学院講義の専門性が高く，専門分野の異なる学生にとって一部難解と感じるケースがあったためかもしれない。ただし，今回の調査では回答数も少なく，また初めての集計でもあることから，今回の結果のみで難易度の設定を検討するのは必ずしも妥当でない。今後も調査を継続することにより，適切な改善方向を検討する必要がある。

【学生自身の学習態度に関する項目】

学生自身の学習態度に関する総合評価（質問13－質問15の平均）では，高い評価をした学生の割合が専攻平均で77%と低かった。討議等には積極的に参加している（質問14），学部講義と同様に，講義時間外の学習を促進するような改善を図る必要がある。

表6 生物生産科学専攻の集計結果（教員別）

		担 当 教 員									
質問番号	質 問 内 容	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
「授業方法に関する項目」											
質問1	講義のスピードは適切だった	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
質問2	視聴覚機器は適切であった	60	63	50	100	100	80	100	75	100	81
質問3	配布資料は役に立った	100	100	83	100	100	100	100	100	100	98
質問4	授業の形態は適切であった	100	100	83	100	100	100	100	100	100	98
質問5	教員の対応は丁寧であった	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
平均（1-5）		92	93	83	100	100	96	100	95	100	95
「講義の内容に関する項目」											
質問6	シラバスはわかりやすかった	100	88	10	67	100	100	100	75	100	82
質問7	講義の目標は理解できた	100	88	100	100	100	100	100	100	100	99
質問8	講義に興味を持てた	100	100	83	100	100	100	100	100	100	98
質問9	説明は理解しやすかった	100	100	83	100	100	80	100	100	100	96
質問10	難易度は適切であった	80	75	83	100	100	80	100	100	100	91
質問11	内容の量は適切であった	100	100	100	100	100	80	100	100	80	96
質問12	有益な情報や示唆を与えた	100	100	83	100	100	100	100	100	100	98
平均（5-12）		97	94	81	96	100	93	100	97	98	95
「学生自身の学習態度に関する項目」											
質問13	予習した	100	33	100	25	50	100	100	100	40	72
質問14	討議などに積極的に参加した	100	100	100	50	100	100	100	100	100	94
質問15	さらに学習を深めたいと思った	40	33	67	50	100	20	100	100	80	66
平均（13-15）		80	55	89	42	83	73	100	100	73	77
回答数		5	8	6	4	2	5	4	4	5	4.8

回答数以外の数値は左の評価結果に該当する割合（%）を示す。

B. 地域資源管理科学専攻

1) 対象教員，講義科目数および受講（アンケート回答）学生数

講義科目担当教員（教授，助教授）の7名を対象として，15質問項目について集計した。なお，アンケート結果未提出の教官は集計から除外した。集計した科目の数は7科目であった。1科目当りの受講学生数は最少で5名，最大で18名であり，平均は6.7名であった。

2) 集計結果および分析

H16年度の集計結果を表7に示す。表中では各教員がアルファベットで表記されている。各教員のアルファベットは，学部の専門基礎科目，専門科目と同じである。集計結果の概要は以下のとおりである。

【講義方法に関する項目】

講義方法に関する総合評価（質問1－質問5の平均）では，専攻平均で94%の学生が高い評価をしている。特に，質問1「スピード」，質問3「配布資料」，質問4「授業の形態」および質問5「教員の対応」の4項目については，98%～100%の学生が満足しており，ほとんどの科目で少人数講義のメリットが十分に発揮されているものと思われる。一方，質問2「視聴覚機器」については，適切と評価した学生の割合が平均で75%と低い傾向にあり，担当教員ごとの評価も最低の50%から最高の100%と広くバラついている。この結果は，視聴覚機器の使用が担当教員個々の判断に任されていることによるものと思われるが，評価の低かった科目では今後の改善が望まれる。

【講義内容に関する項目】

講義内容に関する総合評価（質問6－質問12の平均）では，専攻平均で90%の学生が高い評価をしている。特に，質問7「講義の目標」，質問8「興味」，質問9「説明のわかりやすさ」，質問11「内容の量」，質問12「有益な情報や示唆」では特にスコアが95%以上と高い傾向にあった。一方，質問6「シラバス」と質問10「難易度」の面では，担当教員に対する学生の評価がばらついており，全体的に評価が低くなる傾向にある科目が多かった。特にシラバスについては，評価スコアが20～50%となるような低い科目が多かったため，シラバスについては，今後，改善の余地は大いにあると考えられる。

【学生自身の学習態度に関する項目】

学生自身の学習態度に関する総合評価（質問13－質問15の平均）では，高い評価をした学生の割合が専攻平均で66%と低かった。質問13「予習」をしている割合は，平均で53%であり，受身の学習姿勢が認められる。これは，大学院講義の専門性が高く，専門分野の異なる学生にとっては，自主的な学習姿勢はとりづらいものと推察される。

質問14「討議」で討議に積極的に参加した学生や質問15「学習を深める」に積極的に回答した学生は，回答スコアにバラツキはあるものの平均して71～72%あるので，講義時間外の学習を促進するような改善を図ることにより効果が期待できると考えられる。

表7 地域資源管理科学専攻の集計結果（教員別）

		担 当 教 員							
質問番号	質 問 内 容	A	G	H	I	L	Q	R	平均
「授業方法に関する項目」									
質問1	講義のスピードは適切だった	100	100	100	100	94	100	100	99
質問2	視聴覚機器は適切であった	67	100	100	50	83	67	60	75
質問3	配布資料は役に立った	100	100	100	100	94	100	100	99
質問4	授業の形態は適切であった	100	100	100	83	100	100	100	98
質問5	教員の対応は丁寧であった	100	100	100	100	100	100	100	100
平均（1-5）		93	100	100	87	94	93	92	94
「講義の内容に関する項目」									
質問6	シラバスはわかりやすかった	100	25	57	33	50	100	40	58
質問7	講義の目標は理解できた	100	100	100	100	83	100	100	98
質問8	講義に興味を持てた	100	100	100	83	89	100	100	96
質問9	説明は理解しやすかった	100	100	100	83	83	100	100	95
質問10	難易度は適切であった	100	100	86	83	67	100	60	85
質問11	内容の量は適切であった	100	100	100	83	100	100	100	98
質問12	有益な情報や示唆を与えた	100	100	100	100	100	100	100	100
平均（6-12）		100	89	92	81	82	100	86	90
「学生自身の学習態度に関する項目」									
質問13	予習した	33	25	57	100	44	33	80	53
質問14	討議などに積極的に参加した	67	100	57	100	0	100	80	72
質問15	さらに学習を深めたいと思った	100	100	86	50	17	67	80	71
平均（13-15）		67	75	67	83	20	67	80	66
回答数		3	5	7	6	18	3	5	6.7

回答数以外の数値は左の評価結果に該当する割合（％）を示す。

C. 森林草地環境科学専攻

1) 対象教員，講義科目数および受講（アンケート回答）学生数

講義科目担当教員（教授，助教授）の15名を対象として，15質問項目について集計した。なお，アンケート結果未提出の教員は集計から除外した。また，複数教員で担当されている科目のアンケート結果も，集計から除外した。集計した科目の数は9科目であった。1科目当りの受講学生数は最少で2名，最大で9名であり，平均は3.6名であった。

2) 集計結果および分析

H16年度の集計結果を表8に示す。表中では各教員がアルファベットで表記されている。集計結果の概要は以下のとおりである。

【講義方法に関する項目】

講義方法に関する総合評価（質問1－質問5の平均）では，専攻平均で85%の学生が高い評価をしている。とくに，質問3「配布資料」および質問5「教員の対応」については，平均で95%の学生が満足しており，ほとんどの科目で少人数講義のメリットが十分に発揮されているものと思われる。一方，質問2「視聴覚機器」については，適切と評価した学生の割合が平均で67%と低い傾向にあった。この結果は，演習等を含むような大学院の講義形式とも関連するとも思われるが，評価の低かった科目では今後の改善が望まれる。

【講義内容に関する項目】

講義内容に関する総合評価（質問6－質問12の平均）では，専攻平均で85%の学生が高い評価をしており，質問7「講義の目標」，質問8「興味」，質問8「説明のわかりやすさ」では特にスコアが高い傾向にあった。一方，質問10「難易度」，質問12「有益な情報や示唆」の面では，評価が低い傾向にある科目が多かった。これは，大学院講義の専門性が高く，専門分野の異なる学生にとって一部難解と感じるケースがあったためかもしれない。ただし，今回の調査では回答数も少なく，また初めての集計でもあることから，今回の結果のみで難易度の設定を検討するのは必ずしも妥当でない。今後も調査を継続することにより，適切な改善方向を検討する必要がある。

【学生自身の学習態度に関する項目】

学生自身の学習態度に関する総合評価（質問13－質問15の平均）では，高い評価をした学生の割合が専攻平均で66%と低かった。討議等には積極的に参加しているので（質問14），学部講義と同様に，講義時間外の学習を促進するような改善を図る必要がある。

表 8 森林草地環境科学専攻の集計結果（教員別）

		担 当 教 員										
質問番号	質 問 内 容	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	平均
「授業方法に関する項目」												
質問 1	講義のスピードは適切だった	100	100	100	100	100	100	0	100	50	100	85
質問 2	視聴覚機器は適切であった	100	56	50	100	67	0	50	100	50	100	67
質問 3	配布資料は役に立った	100	100	100	100	100	100	100	100	50	100	95
質問 4	授業の形態は適切であった	100	89	100	100	100	100	50	0	100	100	84
質問 5	教員の対応は丁寧であった	100	100	100	100	100	100	100	100	50	100	95
平均（1-5）		100	89	90	100	93	80	60	80	60	100	85
「講義の内容に関する項目」												
質問 6	シラバスはわかりやすかった	80	78	100	100	100	100	100	100	50	67	87
質問 7	講義の目標は理解できた	100	100	100	100	100	100	100	100	50	100	95
質問 8	講義に興味を持てた	100	89	100	100	100	100	50	100	100	100	94
質問 9	説明は理解しやすかった	100	89	100	100	100	100	100	100	100	100	99
質問10	難易度は適切であった	100	89	100	75	67	100	0	0	50	100	68
質問11	内容の量は適切であった	100	100	50	50	100	100	100	50	50	100	80
質問12	有益な情報や示唆を与えた	100	89	100	100	100	100	0	0	50	100	74
平均（5-12）		98	91	93	92	96	98	68	70	62	96	85
「学生自身の学習態度に関する項目」												
質問13	予習した	100	67	50	75	33	100	50	100	100	33	71
質問14	討議などに積極的に参加した	80	100	50	75	100	100	100	100	100	100	91
質問15	さらに学習を深めたいと思った	80	67	50	50	33	0	0	0	0	100	38
平均（13-15）		87	78	50	67	56	67	50	67	67	78	66
回答数		5	9	4	4	3	2	2	3	2	3	3.7

回答数以外の数値は左の評価結果に該当する割合（%）を示す。

D. 水産科学専攻

1) 対象教員，講義科目数および受講（アンケート回答）学生数

講義科目担当教員（教授，助教授）の11名を対象として，15質問項目について集計した。なお，アンケート結果未提出の教員は集計から除外した。また，複数教員で担当されている科目のアンケート結果も，集計から除外した。集計した科目の数は7科目であった。1科目当りの受講学生数は最少で3名，最大で8名であり，平均は5.9名であった。

2) 集計結果および分析

H17年度の集計結果を表9に示す。表中では各教員がアルファベットで表記されている。集計結果の概要は以下のとおりである。

【講義方法に関する項目】

講義方法に関する総合評価（質問1－質問5の平均）では，専攻平均で99%の受講生が高い評価をしている。とくに，質問3「配布資料」，質問4「授業形態」および質問5「教員の対応」については，100%の受講生が満足しており，ほとんどの科目で少人数講義のメリットが十分に発揮されているものと思われる。また，質問1「講義のスピード」および質問2「視聴覚機器」についても98%の受講生が適切と評価しており，授業方法については概ね問題はないものと判断される。

【講義内容に関する項目】

講義内容に関する総合評価（質問6－質問12の平均）では，専攻平均で92%の受講生が高い評価をしており，質問7「講義の目標」，質問12「有益な情報や示唆」についてはすべての科目について，100%の受講生が高い評価をしている。一方，質問6「シラバス」については評価が低い科目が多く，今後の改善が必要と思われる。さらに，質問10「講義の難易度」の面でも，評価が低い傾向にある科目が多かった。これは，大学院講義の専門性が高く，専門分野の異なる学生にとって一部難解と感ずるケースがあったためかもしれない。

【学生自身の学習態度に関する項目】

学生自身の学習態度に関する総合評価（質問13－質問15の平均）では，高い評価をした学生の割合が専攻平均で44%とかなり低かった。討議等への参加も低く，学部講義と同様に，講義時間外の学習を促進し，学習意欲を高めるような改善を図る必要がある。

表9 水産科学専攻の集計結果（教員別）

		担 当 教 員							
質問番号	質 問 内 容	A	B	C	D	E	F	G	平均
「授業方法に関する項目」									
質問1	講義のスピードは適切だった	100	100	100	100	100	86	100	98
質問2	視聴覚機器は適切であった	100	100	100	100	100	86	100	98
質問3	配布資料は役に立った	100	100	100	100	100	100	100	100
質問4	授業の形態は適切であった	100	100	100	100	100	100	100	100
質問5	教員の対応は丁寧であった	100	100	100	100	100	100	100	100
平均（1-5）		100	100	100	100	100	94	100	99
「講義の内容に関する項目」									
質問6	シラバスはわかりやすかった	63	100	67	71	57	43	100	72
質問7	講義の目標は理解できた	100	100	100	100	100	100	100	100
質問8	講義に興味を持てた	100	100	100	100	86	86	100	96
質問9	説明は理解しやすかった	100	100	100	86	100	100	100	98
質問10	難易度は適切であった	88	100	100	86	71	57	100	86
質問11	内容の量は適切であった	100	100	83	86	86	100	100	94
質問12	有益な情報や示唆を与えた	100	100	100	100	100	100	100	100
平均（5-12）		94	100	94	92	89	87	100	92
「学生自身の学習態度に関する項目」									
質問13	予習した	13	100	50	57	0	14	33	38
質問14	討議などに積極的に参加した	25	100	67	57	14	14	33	44
質問15	さらに学習を深めたいと思った	50	100	17	57	43	43	33	49
平均（13-15）		29	100	44	57	19	24	33	44
回答数		8	3	6	7	7	7	3	5.9

回答数以外の数値は左の評価結果に該当する割合（%）を示す。

E. 応用生物科学専攻

1) 対象教員，講義科目数および受講（アンケート回答）学生数

平成17年度後期講義科目担当教員（教授，助教授）の6名を対象として，15質問項目について集計した。なお，アンケート結果未提出の教員は集計から除外した。また，複数教員で担当されている科目のアンケート結果も，集計から除外した。集計した科目の数は6科目であった。1科目当りの受講学生数は最少で3名，最大で10名であり，平均は6.2名であった。

2) 集計結果および分析

H17年度の集計結果を表10に示す。表中では各教員がアルファベットで表記されている。集計結果の概要は以下のとおりである。

【講義方法に関する項目】

講義方法に関する総合評価（質問1－質問5の平均）では，専攻平均で96%の学生が高い評価をしている。とくに，質問4「授業形態」および質問5「教員の対応」については，すべての受講学生が満足しており，ほとんどの科目で少人数講義のメリットが十分に発揮されているものと思われる。一方，質問2「視聴覚機器」については，適切と評価した学生の割合が平均で86%と，他の評価項目と比べるとやや低い傾向にあった。この結果は，演習等を含むような大学院の講義形式とも関連すると思われるが，評価の低かった科目では今後の改善が望まれる。

【講義内容に関する項目】

講義内容に関する総合評価（質問6－質問12の平均）では，専攻平均で91%の学生が高い評価をしており，質問7「講義の目標」，質問8「興味」，質問12「有益な情報や示唆を与えた」では特にスコアが高かった。一方，質問10「難易度」の面では，評価が低い傾向にある科目が多かった。これは，大学院講義の専門性が高く，専門分野の異なる学生にとって一部難解と感じるケースがあったためかもしれない。ただし，今回の調査では回答数も少なく，また初めての集計でもあることから，今回の結果のみで難易度の設定を検討するのは必ずしも妥当でない。今後も調査を継続することにより，適切な改善方向を検討する必要があるだろう。

【学生自身の学習態度に関する項目】

学生自身の学習態度に関する総合評価（質問13－質問15の平均）では，高い評価をした学生の割合が専攻平均で73%とやや低かった。討議等に積極的に参加している様子は見受けられるので（質問14），学部講義と同様に，講義時間外の学習を促進するような改善を図る必要があるだろう。

表10 応用生物科学専攻の集計結果（教員別）

		担 当 教 員						
質問番号	質 問 内 容	A	B	C	D	E	F	平均
「授業方法に関する項目」								
質問 1	講義のスピードは適切だった	100	83	100	100	100	100	97
質問 2	視聴覚機器は適切であった	100	67	50	100	100	100	86
質問 3	配布資料は役に立った	100	83	100	100	100	100	97
質問 4	授業の形態は適切であった	100	100	100	100	100	100	100
質問 5	教員の対応は丁寧であった	100	100	100	100	100	100	100
平均（1-5）		100	87	90	100	100	100	96
「講義の内容に関する項目」								
質問 6	シラバスはわかりやすかった	100	100	33	100	90	90	86
質問 7	講義の目標は理解できた	100	100	83	100	100	100	97
質問 8	講義に興味を持てた	100	100	100	100	100	100	100
質問 9	説明は理解しやすかった	83	100	83	100	90	90	91
質問10	難易度は適切であった	50	50	83	67	80	80	68
質問11	内容の量は適切であった	100	83	100	83	100	100	94
質問12	有益な情報や示唆を与えた	100	100	100	100	100	100	100
平均（6-12）		90	90	83	93	94	94	91
「学生自身の学習態度に関する項目」								
質問13	予習した	50	33	100	33	100	100	69
質問14	討議などに積極的に参加した	100	50	100	83	100	100	89
質問15	さらに学習を深めたいと思った	33	83	17	83	70	70	59
平均（13-15）		61	56	72	67	90	90	73
回答数		6	6	6	6	10	3	6.2

回答数以外の数値は左の評価結果に該当する割合（％）を示す。

5. 授業評価の総括

(1) 学士課程

今年度の報告書では、専門基礎科目と専門科目に区分して授業評価の集計を行った。

学部全体の傾向として、専門基礎科目では講義方法および講義内容に関する項目ともに、概ね良好な評価結果が得られた。その中で、講義方法の評価結果が専門科目と比較してやや低い学科もみられた。専門基礎科目は複数教員の担当による講義が比較的多いため、これが低い評価に影響した可能性がある。複数教員が担当する科目については、教員間の情報交換等の連携をさらに深め、今後の授業改善を検討していく必要がある。また、学生自身の学習態度に関する項目は、講義方法および講義内容に関する項目と比較して全体的にスコアが低い傾向にあった。専門基礎科目を通して学生の自学自習を促進し習慣づけることの意義は極めて大きいと考えられることから、今後の改善が望まれる。

専門科目においては、講義方法と講義内容に関する項目で、前年度の評価結果と比較して概ね改善が認められた。教員個人レベルで顕著な改善が見られるケースもあり、授業評価の実施が授業改善に確実に繋がっていることが伺われた。今後も継続的に授業評価に基づく授業改善を実施していくことが重要である。一方、学生自身の学習態度に関する項目については、専門基礎科目と同様に他の項目よりも評価が低く、また前年度と比較した改善度合いも小さい傾向にあった。したがって、今後は専門基礎科目と併せて、学生の自学自習を促進するような授業改善を、学部全体としてすすめる必要があるであろう。

(2) 大学院修士課程

大学院修士課程の授業評価の集計を行ったのは本年度が初めてである。また大学院講義の受講者数は学部講義に比べて少ないため、必ずしも十分な評価資料が得られたとはいえないが、集計結果からは次のような傾向がみられた。

講義方法については全体に評価が高く、ほとんどの科目で少人数講義のメリットが十分に発揮されていることが伺われた。一方、講義内容に関する項目は、講義方法に関する項目や学部講義の評価結果と比較してやや低いケースが見られた。これは、大学院講義の専門性が高く、専門分野の異なる学生にとっては、一部難解と感ずるケースがあったためかもしれない。これが、学生自身の学習態度に関する項目の低い評価にも、少なからず影響した可能性がある。現在、大学院については単年度の集計結果しか得られていないが、各教員においては、この結果を参考に授業改善を図ると共に、今後も継続的な授業評価の実施をお願いしたい。

委員名簿（評価室・FD担当ワーキンググループ）

評価室長 原 田 宏（評価担当副学部長）

委 員 足 立 勝（食料生産科学科）

委 員 稻 垣 仁 根（地域農業システム学科）

委 員 伊 藤 哲（生物環境科学科）

委 員 吉 田 直 人（応用生物科学科）

委 員 池 田 正 浩（獣医学科）

委員外 林 昌 弘（生物環境科学科：水産科学専攻担当）

「資料1」

平成17年度「学生による授業評価」調査票（質問用紙）

科目名： _____ ， 学科名： _____ ， 学年： _____

この調査票は、本学部の授業内容・方法を一層充実・改善するための資料となるものです。記入にあたっては、学生諸君の素直な評価をお願いします。なお、この調査はあなたの成績と一切関係はありません。

下記の項目の質問について、別紙の「学生による授業評価」調査票（回答表）に適切と思われる番号の丸数字を塗りつぶして下さい。複数回答しても結構です。また、それぞれの質問の項目で、指定された箇所以外でも、とくに評価できる点あるいは改善すべき点があれば、「記述欄に書いて下さい。」

A

「この授業方法に関する項目」

1) 講義は、聞き取りやすかったですか。

5：聞き取りやすかった， 4：早口で聞き取りにくかった， 3：声が小さく聞き取りにくかった， 2：その他の理由で聞き取りにくかった。（1～0はなし）

* 2に丸印をつけた人は、どのような点が聞き取りにくかったか、記述欄に記入して下さい。

2) 講義を進めるスピードは適切でしたか。

5：適切， 4：早過ぎる， 3：遅すぎる。（2～0はなし）

3) 講義において板書の仕方や配布プリントあるいはOHP（液晶プロジェクター）などの視聴覚機器は適切でしたか。

5：適切であった， 4：板書が読みづらかった， 3：OHPが見にくかった， 2：プリントやOHPは使用されなかった。（1～0はなし）

4) 教員は講義の進行を妨げるような行為（私語など）があった場合、注意していましたか。

5:していた。、 4:していなかった。、 3:そのような私語などはなかった。（2～0はなし）

「講義の内容に関する項目」

5) 配布したシラバスは、講義の内容・進め方についてわかりやすく書いてありましたか。

5：わかりやすかった， 4：わかりにくかった， 3：シラバスを読んでも内容が良く分からなかった， 2：シラバスについて知らなかったのので、受講前に読んでいなかった。（1～0はなし）

6) この講義全体の目標はよく理解できましたか。

5：理解できた， 4：理解できなかった。（3～0はなし）

7) この授業に興味を持ってましたか。

5：持てた， 4：持てなかった。（3～0はなし）

* 4に丸印をつけた人は、興味もてなかった理由は何ですか？記述欄に記入して下さい。

- 8) 毎回の授業のねらいはその都度明確にされていきましたか。
5 : されていた, 4 : されていなかった。(3~0はなし)
- 9) 毎回の授業の内容はよく準備されたものと感じられましたか。
5 : 準備されていた, 4 : 準備不足。(3~0はなし)
- 10) 授業での説明は理解しやすかったですか。
5 : 理解しやすかった, 4 : 理解しにくかった。(3~0はなし)
* 4に丸印をつけた人は, どのような点が理解しにくかったか, 記述欄に記入して下さい。
- 11) 授業の内容は難しく(難易度)感じましたか。
5 : 難しかった, 4 : 適切, 3 : 易しすぎた。(2~0はなし)
* 5に丸印をつけた人は, どのような点が難しいと感じたか, 記述欄に記入して下さい。
- 12) 授業内容の量は, 適切でしたか。
5 : 多すぎる, 4 : 適切, 3 : 物足りなかった。(2~0はなし)

「学生自身の学習態度に関する項目」

- 13) この授業に興味を持ち, 自主的に調べたことはありますか。
5 : ある, 4 : ない。(3~0はなし)
- 14) この授業について, 予習しましたか。
5 : した, 4 : 少しした, 3 : しなかった。(2~0はなし)
* 3に丸印をつけた人は, 何故予習しなかったのか, その理由を記述欄に記入して下さい。
- 15) 復習をしましたか。
5 : した, 4 : 少しした, 3 : しなかった。(2~0はなし)
* 3に丸印をつけた人は, 何故復習しなかったのか, その理由を記述欄に記入して下さい。

「資料2」

平成17年度「学生による授業評価」実験・実習に関する調査票（質問用紙）

科目名： _____ ， 学科名： _____ ， 学年： _____

この調査票は、本学部の実験・実習内容・方法を一層充実・改善するための資料となるものです。記入にあたっては、学生諸君の素直な評価をお願いします。なお、この調査はあなたの成績と一切関係はありません。

下記の項目の質問について、別紙の「学生による授業評価」調査票（回答表）に [] の中から適切と思われる番号の丸数字を塗りつぶして下さい。また、この実験・実習に関する感想や評価できる点あるいは改善すべき点、があれば、回答表のコメント欄に記入してください。

[5 : 非常に満足 4 : やや満足 3 : 普通 2 : やや不満 1 : 非常に不満]

A

「実験・実習に関する項目」

1. 実験・実習に関するシラバスは、適切であった。
2. 実験・実習の時間設定が適切であった。
3. 実験・実習に関する資料（実験書あるいはプリント資料）は学生に理解できるように工夫されていました。
4. 実験・実習に関する説明は要点が理解できる説明であった。
5. 機械・器具の使用法の説明が明確であった。
6. 実験・実習前あるいは実習中の教官の説明は適切であった。
7. 実験・実習に教官としての熱意が感じられた。
8. 学生の質問に丁寧に対応していた。
9. 実験・実習器具・機械が適切に配分されていた。
10. 不適切（不真面目な学生も含む）な実験・実習をしている学生にはその都度、教官は注意する等の指導をしていた。
11. レポートの書き方の指導が適切であった。
12. レポートの考察や学習課題等の助言がなされていた。
13. レポートの評価（訂正等）は適切であった。
14. あなたは実験を通じて、実験技術等が向上しました。
15. ティーチングアシスタントは適切な指導補助を行いました。

「資料3」

平成17年度「学生による大学院授業評価」調査票（質問用紙）

科目名： _____ ， 学科名： _____ ， 学年： _____

この調査票は、本農学研究科の授業内容・方法を一層充実・改善するための資料となるものです。記入にあたっては、学生諸君の素直な評価をお願いします。なお、この調査はあなたの成績と一切関係はありません。

下記の項目の質問について、別紙の「学生による授業評価」調査票（回答表）に適切と思われる番号の丸数字を塗りつぶして下さい。複数回答しても結構です。また、それぞれの質問の項目で、指定された箇所以外でも、とくに評価できる点あるいは改善すべき点があれば、「記述欄に書いて下さい。」

「この授業方法に関する項目」

- 1) 講義を進める速さは適切でしたか。
5：速すぎる，4：適切，3：遅すぎる。（2～0はなし）
- 2) 講義において板書の仕方やOHP（液晶プロジェクター）などの視聴覚機器の使用は適切でしたか。
5：適切であった，4：板書が読みづらかった，3：OHPが見にくかった，2：OHPは使用されなかった。（1～0はなし）
- 3) 配布された資料・文献などは、授業内容を理解する上で役立った。
5：役立った，4：そう思わない。（3～0はなし）
- 4) 授業の形態（演習形式など）は適切であった。
5：適切であった，4：そう思わない。（3～0はなし）
- 5) 教員は学生の質問に丁寧に対応し、熱意が感じられた。
5：感じられた，4：そう思わない。（3～0はなし）

「講義の内容に関する項目」

- 6) シラバスで紹介された講義の内容・進め方はわかりやすく書いてありましたか。
5：わかりやすかった，4：わかりにくかった，3：シラバスを読んでも内容が良く分からなかった，2：シラバスについて知らなかったので、受講前に読んでいなかった。（1～0はなし）
- 7) この講義全体の目標とするところをよく理解できましたか。
5：理解できた，4：理解できなかった。（3～0はなし）
- 8) この授業は興味をもてましたか。
5：持てた，4：持てなかった。（3～0はなし）
- 9) 授業での説明は理解しやすかったですか。
5：理解しやすかった，4：理解しにくかった。（3～0はなし）

- 10) 授業の内容は難しく（難易度）感じましたか。
5：難しかった，4：適切，3：易しすぎた。（2～0はなし）
- 11) 授業内容の量は，適切でしたか。
5：多すぎる，4：適切，3：物足りなかった。（2～0はなし）
- 12) この授業は，有益な情報や示唆を与えた。
5：与えた，4：与えなかった。（3～0はなし）

「学生自身の学習態度に関する項目」

- 13) この授業について，予習（準備）しましたか。
5：した，4：少しした，3：しなかった。（2～0はなし）
- 14) 質問，発言，討議など授業へ積極的に参加しましたか。
5：した，4：少しした，3：しなかった。（2～0はなし）
- 15) 授業内容についてさらに学習を深めたいと思いましたか。
5：そう思う，4：どちらかというと思う，3：どちらともいえない，2：どちらかというと思う，1：そう思わない。